

令和7年度 大津市立小野小学校 我が校の強み・弱み分析シート

実態

学力調査結果(%) ※小数点第1位を四捨五入

年度	令和7年度			令和6年度		令和5年度		令和4年度		
教科	国語	算数	理科	国語	算数	国語	算数	国語	算数	理科
小野小学校	78	61	63	***	***	***	***	***	***	***
大津市(公立)	66	59	58	67	64	67	64	64	62	60
滋賀県(公立)	65	57	56	65	62	66	61	63	61	61
全国(公立)	67	58	57	68	63	67	62	66	63	63

国の結果からの分析

記述式や思考を要する問題群で、国語・算数ともに正答率が急激に低下している点が共通した大きな課題である。これは、単に「知識を覚える」段階から、「それを使って考え表現する力」へ移行する過程で多くの児童がつまづいていることを示している。

目標

豊かな感性を持ち、しなやかにたくましく生きる小野っ子

目標を達成するための6つの主な取組(A～F)

A 学力向上にむけて

児童の自ら学ぶ力をつけるため、基礎基本の定着、家庭学習の習慣化により一層の力を注いでいく。また、各教科の強み、弱みを明確にし、強みを伸ばし、弱みを改善できるよう、実践的な研究を進めていく。

B 校内研究

【研究主題】

- 自分なりに解決し、
知識を再構築する子供を目指して
～「めあて」、「まとめ」、「振り返り」に
重点を置いた授業づくり～
- 小野小スタンダードプラスの取り組み
「課題発見ー板書ー振り返りー学びあいー見通し」を連携させ、「音読(話す、書く、語彙)」の取り組みを加える。
 - 学年部で全体研究授業を行う。
 - 3月に研究のまとめを行う。(小野っ子を語る会)

C のびっ子タイム

【ねらい】

学習の基礎基本の定着を目指す。

【方法】

- 毎日5時開始前の10分間とする。
- 各学級が取り組んでいる単元につながる形で、感じや語句の意味調べ、音読などに取り組む
- 通常の授業では継続と徹底が難しい、書くことやノート指導なども行う。
- 担当は、基本学級担任が行う
- 児童の変容等を月に1回程度、職員間で交流する。

関連

関連

D 国語における指導

- 文に慣れること、語彙力UPの為にミッケル号の活用
- 友人たちと推敲し合う活動の取り入れ。

E 算数における個に応じた指導

- 算数専科教員の配置。
- 「イメージマップ」だけでなく、いろいろな情報を整理するツールに慣れる。

F 朝読書

毎朝8:15～8:20を「小野っ子読書タイム」とし、詠むことに慣れるとともに、その日の予定に関する情報整理の時間として取り組む。

児童質問票より

【強み】

1, 教師の支援・関わりに対する信頼（質問番号6より）

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目において、「当てはまる」と答えた児童の割合 92.3%と、県（53.1%）・全国（55.3%）を大きく上回っており、教職員と児童との信頼関係が非常に良好であることがわかります。

2, ICT 活用能力の高さ（質問番号29-1～30-7より）

「ICT を使って情報を整理できる」「情報収集ができる」と答えた児童の割合が全国平均を上回っています。また、「友達と協力しながら学習できる」「画像・動画等を活用して学べる」などの項目も高く、ICT 教育が効果的に機能しているといえます。

3, 自分と異なる意見を受け入れる態度（質問番号13より）

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童が 46.2%と、全国（32.6%）よりも高く、多様性を尊重する学びが浸透している様子がうかがえます。

4, 家庭の安定した生活習慣（質問番号1および4より）

「朝食を毎日食べている」は 100%（全国 83.3%）、「主に日本語で話している」も 100%（全国 98.4%）と、家庭での基本的な生活習慣が安定しているといえます。

【弱み・今後の課題】

1, 読書習慣・読書量の低さ（質問番号24および21より）

「読書が好き」と答えた割合が 15.4%と、全国（36.4%）と比較して大きく下回っています。また、「読書時間がゼロ」と答えた割合も高く、読書活動の充実が課題といえます。

2, 家庭学習時間の少なさ（質問番号17および19より）

平日の家庭学習時間「1 時間未満」が 76.9%（30 分未満が最多）と、県や全国の平均よりも高く、家庭での学習習慣の定着に課題が見られます。

3, 自然体験・地域連携の少なさ（質問番号25および26より）

「自然の中で遊んだことがある」（23.1%）「地域の大人と関わることがある」（0%）などの項目では、県・全国平均を大きく下回っており、地域資源とのつながりを生かした体験活動が不足している可能性があります。

4, 自己肯定感の課題

「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童が 46.2%と、全国・県と同等ですが、約半数が自己肯定感に自信を持っていないことが読み取れます。

【まとめ】

教師との信頼関係が厚く、ICT を活用した学習にも意欲的で、個を尊重する教育が実践されている。一方で、家庭での学習習慣や読書活動、地域や自然との関わり、そして自己肯定感の向上といった点には、今後さらに力を入れていく必要がある。これらの課題を克服することで、さらに豊かな学びと育ちの場を築くことができると考える。